

平成30年11月22日審議

1	申請者	神経内科医長	池田 仁
	2018-14	高齢発症てんかんにおける薬物治療の検討	
	研究の概要	<p>高齢発症てんかんは抗てんかん薬に反応しやすいと認識されているが、器質的背景病態をもつ患者の発作予後は必ずしもよくない。明らかな器質的背景の有無による発作予後の違いを検討する。</p> <p>また、てんかん診療ガイドライン2018(日本神経学会)では、数種類の薬剤が並列で推奨されているものの、1年以上の長期発作抑制を最短でより安全に達成しうる薬剤はどれかという臨床現場でもっとも必要な情報を提供してはいない。どの薬を第一選択として使用すべきかを検討する。</p> <p>さらに、高齢発症てんかんという概念はどの発症年齢から適用されるべきか、についても検討する。</p>	
	判定	承認	本申請は承認された。
2	申請者	臨床研究部長	今井 克美
	2018-15	結節性硬化症患者の自閉症スペクトラム障害に対するエベロリムスの改善効果と奏功機序にもとづく治療抵抗性自閉症スペクトラム症の新規治療薬の開発: open-label study	
	研究の概要	<p>本研究では、自閉症スペクトラム症(ASD)の病態モデルとされている結節性硬化症(TSC)に伴う難治性のASD症状に対して、TSCの治療薬、エベロリムスが奏功する脳科学的な奏功機序を検索することによって、治療抵抗性ASDの病態マーカーと新規治療薬の導出を目指している。本研究ではTSC患者において、mTOR阻害薬投与前後での血清中のペプチドの網羅的解析(ペプチドーム解析)を行い、治療効果の期待できるペプチドを同定し、ASD症状改善の機序解明およびペプチド創薬基盤の確立を目指す。</p>	
	判定	承認	本申請は承認された。